

## 当院での時間外業務の尿沈渣における技師間差をなくすための取り組みについて

◎萩原 健太<sup>1)</sup>、奥嶋 博美<sup>1)</sup>  
独立行政法人 東京労災病院<sup>1)</sup>

[はじめに]当院では時間外の緊急検査で尿沈渣の鏡検を行っている。日常業務で一般検査の担当でない技師も時間外業務を行っているため、臨床と相談して赤血球、白血球、扁平上皮、細菌、真菌の5項目を最低限報告することになった。その他の尿沈渣成分は技師の経験や力量に任せて報告しており、不安を抱えている技師もいるため、技師間差をなくす目的で2021年1月から定期的な目合わせを行っている。

[対象]時間外業務を行っている臨床検査技師22名

[方法]2ヶ月に1回、尿沈渣成分のスライド画像を4枚配布した。スライド画像は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査で出題されたものと、東京都臨床検査技師会一般検査研究班のWebサイトで公開されているものから抜粋し、後日出題者による解説を行った。集計は①日常業務の一般検査担当技師とそうでない技師の正答率の比較②2021年1月から2021年10月までの全体の正答率の推移③正答率の低い尿沈渣成分の抽出④アンケート調査とした。

[結果]①日常業務の一般検査担当技師では平均正答率は

99.5%であり、そうでない技師では90.9%だった。②全体の正答率の推移は91.7%、100%、92.9%、92.6%、95.6%、95.6%だった。③正答率の低い尿沈渣成分は、顆粒円柱、尿管上皮、シュウ酸Ca結晶であり、正答率はそれぞれ86.6%、76.5%、82.4%だった。④目合わせにより自信のついた技師が82%、逆に不安になった技師が18%だった。

[まとめ]①約10%の差が出たが、赤血球や白血球などの基本的な非上皮細胞類は間違える技師は少なかった。②開始時の正答率は91.7%と最低だったが現在は100%を取る者が増えている。③これらの項目は目視必須項目には含まれていないため、正答率が低かったと考える。アンケート結果からも不安に思う技師がいるため、解説時に鑑別ポイントを詳細に説明する様、心がけている。

[考察]今後は報告必須尿沈渣成分ではないが③について改善していきたいと考えている。時間外業務を行う技師全員が不安を抱えることなく尿沈渣の結果を正しく報告することが出来る様、今後もこの活動を続けていきたい。

連絡先 03-3742-7301 内線 1330